

令和4年度 進路指導研修会 報告書

1. 研修目的 学校推薦型選抜や総合型選抜の近年の動向や、志望理由書や小論文などで求められる表現力の育成に関する先進校の事例等を含めた情報を共有し、各校の進路指導の一助とする。
2. 研修日時 令和4年10月21日(金) 15:00 ~ 16:10
3. 会場 静岡県私学会館 5階大会議室
静岡市葵区追手町9-26 電話:054-254-8208
4. 参加者 進路担当教職員等 26名(Zoomでの参加者を含む)
5. 講演 演題 「総合型選抜・学校推薦型選抜で求められる表現力と
近年の秋入試の動向について」
講師 株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー
西日本教育支援推進部 名古屋支社 静岡県担当 仲 和志 様

6. 講演内容

①学校推薦型・総合型選抜に関する情報整理

- ・近年、国公立大・私大ともに学校推薦型・総合型選抜での合格者が増加しているが、これらの入試において大学が重要視していると考えている項目が、高校側と大学側に大きなギャップが生じている点に注目したい。
学校推薦型・総合選抜型ともに大学側が最重要視しているのは「明確な志望動機」であることは高校側の考えとの乖離はない。一方で「基礎学力」「コミュニケーション能力」「何事にも前向きに取り組む姿勢」「応用的な学力」を大学側が重要視しているという回答は、高校側の認識との差が大きい。近年では、一般選抜入試同様、推薦型・総合型入試でもさまざまな形式で学力を問う内容に変化している。どのような入試形態を選択するにしても、入学後の学びに不可欠な学力をきちんと養成することが、さらに求められている。
- ・希望進路・興味ある学部系統を見つけた生徒と未定なままの生徒では、日々の学習時間の差が大きい。そしてこの差が、受験期において決定的な実力差になっていく、と予測される。なので、低学年から希望進路・興味ある学部系統をそれぞれが見つけられる指導を、より意識的に進路行事に盛り込んでいく必要があるのではないかと。
- ・現状、大学側が最重要視している「明確な志望動機」を表現できない・しきれない生徒への指導が、各校の秋入試進路指導の大きなウェイトを占めている。その状況を変化させるためにも、やはり低学年から「希望進路に対するこだわり」を持たせ、「言語化・具体化」させていく指導の充実が必要である。

②推薦指導に関する全国の取り組み事例紹介

- ・①で提示された課題解消に向けて、全国のさまざまなタイプの高校の実践事例が紹介された。参加した各高校の実情に近い高校が、低学年からどのように指導しているのか・教員間の協力体制や指導体制はどうかといった点は、今後の各校への取り組みに関して、大いに参考になる情報提供だった。

③今後に向けた指導のポイントについて

- ・進路の「じぶんごと化」、相手に伝わる「言語化」、またデータを踏まえた校内での「密な連携」が、秋入試の成功の鍵となっていく。その点に留意して、今後の進路指導の充実を図っていく。